

私が贈る  
1冊

# 一生学べる仕事力大全

藤尾秀昭監修 致知出版社

柴崎聡

グローバルユースビューロー代表取締役社長



数

年前に参加したハイキング・トレッキングの会で、一緒に山に登っていた方が致知出版社の社員だった。私は雑誌「致知」の存在は知っていたが、書店で販売されていないのでたまに図書館で読む程度。「柴崎さん、企業経営する方はこの雑誌を読むべきです。僕は『致知』を読むことで人生が変わりました」と同行していた別の企業経営者に言われた。以来、私は定期購読して毎月楽しみに読むようになった。

今年上梓された本書は、この雑誌の過去の1万本以上に及ぶという記事の中から珠玉の作品を厳選して収録したものだ。稲盛和夫、永守重信、柳井正などの経営者だけでなく、スポーツ、芸術、料理、学問、文学など各界で活躍された先達たちの生の体験談がインタビュー形式で掲載されている。人生における仕事とは何か？ 自分は仕事で何を成し遂げるべきか？ 本書を読むことは自分の内面と対話する機会となる。仕事は人や社会の役に立つ最良の手段であること、そして職場は自身の心を磨く修行の場であるということであらためて教えてくれる。

発行元の致知出版社は、主に人間の生き方や働き方に関する書籍や雑誌を刊行している。月刊誌「致知」は1973年に創刊され、人間学をテーマにして多くのリーダーや経営者に支持されている。今年創刊45周年を迎え、定期購読者数が11万人を超えているというから驚きである。

プライベートな話であるが、私は出版社の息子と

して育った。祖父は国文学者で、解釈学会という国語・国文学の学会を立ち上げた。その学会活動を助けるために父が出版社を興し、紆余曲折を経て現在も家族が小さな出版社を経営し、学会も継続している。出版業界もデジタル化や直販化の大波で激変するなかで出版社の経営の多難さも肌で感じている。

致知出版社は書店で販売を行わず、創業以来、口コミによって読者を増やしてきたという。そして現在「致知」は日本で唯一の人間学を学ぶ月刊誌となっている。出版界でも珍しい経営方針はあまり世間に知られていないが、本書は一般書店でも購入できるので、ぜひ一読をお勧めしたい。

現在、旅行業界に身を置く私自身も、コロナ禍を経て激変した社会の中で難しい経営のかじ取りに日々直面している。本書は実際に経営してきた先輩方の思いや体験がつづられており大変励まされた。私は本書によって得られた思考だけでなく、この出版社の信念が貫かれている経営方針にも感銘を受けている。



## Profile

しばざき・さとし ● 大学を卒業後、ドイツに渡り2年間フランクフルト大学に在籍した後、家業である出版社の手伝いのため急遽帰国。その後、出版業界から旅行業界に転じ21年から現職。シニア層を主な対象にした海外・国内旅行とともにインバウンドにも挑戦している。